

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	熊本工場本社/2棟新築工事	階数	地上4F	
建設地	熊本県熊本市北区植木町一木字78	構造	S造	
用途地域	工業地域、指定なし	平均居住人員	0 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2019年12月 竣工	評価の実施日	2017年12月20日	
敷地面積	49,996 m ²	作成者	柳田果李	
建築面積	8,181 m ²	確認日	2017年12月22日	
延床面積	15,842 m ²	確認者	吉永拓郎	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★★★

BEE = 1.1

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

75%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

80

	評価点	■ 熊本県重点評価基準												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	85.0	<table><thead><tr><th>判定値 (評価点)</th><th>ランク表示</th></tr></thead><tbody><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></tbody></table>	判定値 (評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値 (評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	55.0													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	82.5													
【重点事項4】 循環型社会の実現	92.2													

※評価点は、100点以上が推奨です。

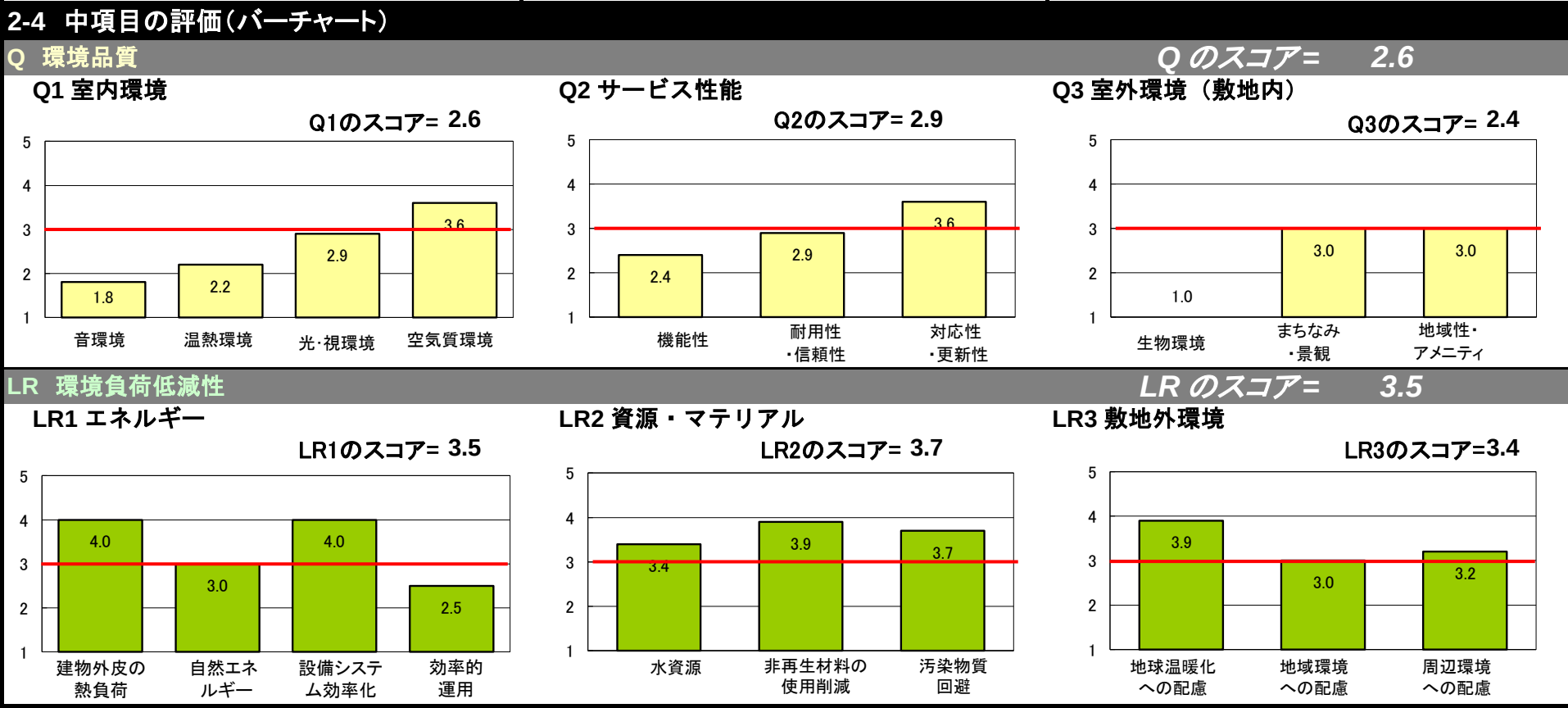
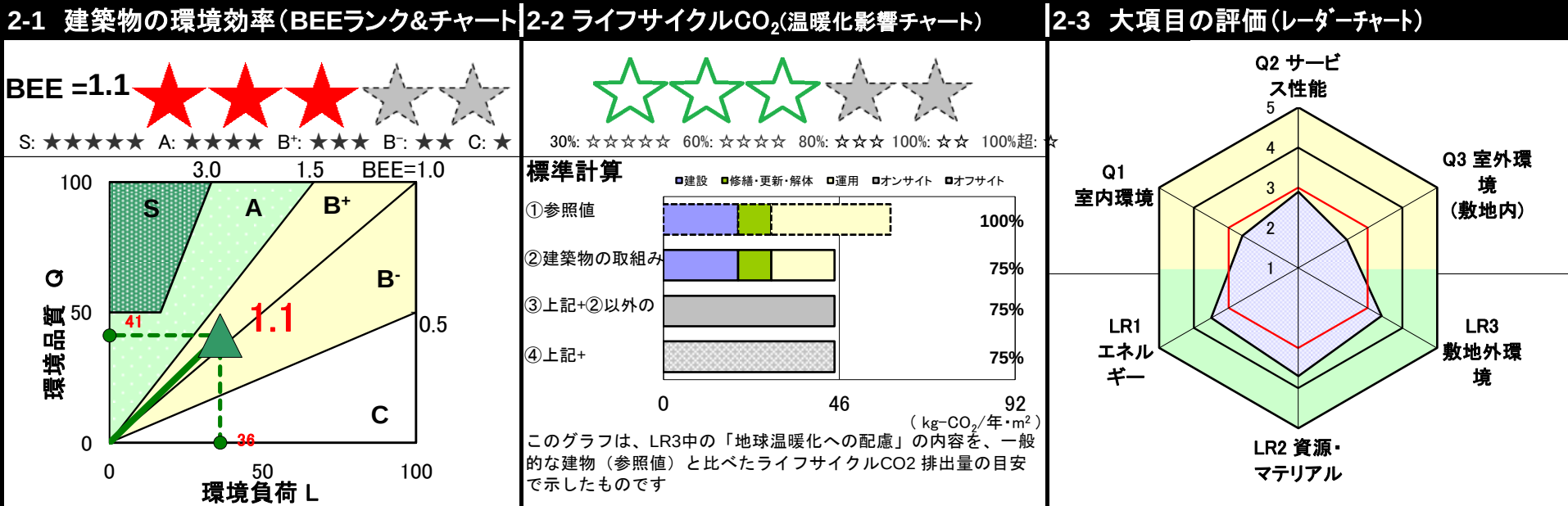
Page : 1/6

Sheet : 1/5

CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	熊本工場本社/2棟新築工事	階数	地上4F
建設地	熊本県熊本市北区植木町一木字78	構造	S造
用途地域	工業地域、指定なし	平均居住人員	0 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 竣工	評価の実施日	2017年12月20日
敷地面積	49,996 m ²	作成者	柳田果李
建築面積	8,181 m ²	確認日	2017年12月22日
延床面積	15,842 m ²	確認者	吉永拓郎



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 熊本工場本社/2棟新築工事		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)			
スコアシート 実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質						2.6	
Q1 室内環境			0.30		-	2.6	
1 音環境		1.8	0.15	-	-	1.8	
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-		
1 2 開口部遮音性能		1.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能		1.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-		
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-		
2 温熱環境		2.2	0.35	-	-	2.2	
2.1 室温制御		2.2	0.50	-	-		
1 室温		1.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		3.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境		2.9	0.25	-	-	2.9	
3.1 昼光利用		1.8	0.30	-	-		
1 昼光率		1.0	0.60	-	-		
2 方位別開口		-	-	-	-		
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-		
1 昼光制御	ブラインド+庇	4.0	1.00	-	-		
3.3 照度		3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境		3.6	0.25	-	-	3.6	
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆	4.0	1.00	-	-		
2 アスベスト対策		-	-	-	-		
4.2 換気		2.6	0.30	-	-		
1 換気量		3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能	0.065>0.033	4.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御	完全分煙(分煙室)	5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.9	
1 機能性		2.4	0.40	-	-	2.4	
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		1.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性		3.6	0.30	-	-		
1 広さ感・景観	2階事務室 天井高:3m	5.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース:83.27%	5.0	0.33	-	-		
3 内装計画		1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-		
3 衛生管理業務		-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	ガルバリウム鋼板(25年)	4.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-		

2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	事務所:4m 4F:0.07<0.1	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ		5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)				—	0.40	-	-
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		・底の設置・防犯性・建物利用者の参加性	4.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				—	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				4.0	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI 非住宅 住宅(専有部)			4.0	0.63	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEIm:0.53	4.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価(3c)				-	-	-	
4 効率的運用				2.5	0.25	-	-	2.5
	集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価				-	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制			-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	自動水栓+節水型便器(グリーン購入品)			4.0	0.40	-	-	
				3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.9	0.60	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメントB種	5.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生クラッシュラン・ソーラトン平板	4.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		軽鉄下地使用・内装材と設備が錯綜せず、容易に取り外し可能	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	グラスウール断熱材	5.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			一般的なライフサイクルCO2	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	3	交通負荷抑制	・駐車場の確保・荷捌き車両の駐車場の確保・複数の出入り口	4.0	0.33	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	光害対策チェックラインの過半数を満たし、広告物照明はなし	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

道路からの圧迫感に配慮し、ダブルスキンを設け、外壁との緩衝材とするとともに、騒音対策及び景観に配慮した。また、国道沿いには緑地帯及び樹木を設け環境に配慮した。

Q1 室内環境

・ F☆☆☆☆ 建材を使用。

Q2 サービス性能

・ 設備系統は専用PS, EPSを設け、各階よりメンテナンスができるように配慮した。

Q3 室外環境（敷地内）

・ 敷地内は可能な限り緑化し、暑熱環境に配慮した。

LR1 エネルギー

・ 窓ガラスは複層ガラスとし、熱負荷低減に配慮した。

LR2 資源・マテリアル

・ 断熱材は全てノンフロンを使用した。

LR3 敷地外環境

良い照明環境を得るための対策を行っている。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 熊本工場本社/2棟新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		80
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				85	0.40	34.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.10			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.10			
Q1-3.2.1	昼光制御	4.0	0.10			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				55	0.20	11.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				92.2	0.20	18.44
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数